

東北大学機械系 同窓会ニュース

第9号

東北大学機械系同窓会

〒980-8579
仙台市青葉区荒巻字青葉01
東北大学工学部機械知能工学科内
電話：(022) 217-6926
FAX：(022) 217-6926
E-Mail: dousou@mech.
tohoku.ac.jp
ホームページ http://www.dousou.
mech.tohoku.ac.jp/

郵便振込口座
番号 02270-8-11176
名称 東北大学機械系同窓会
印刷 東北大学生協同組合

会費納入のお願い

同窓会は、会員皆様から納入される会費によって運営されています。同封の振込用紙を使って会費納入をお願い致します。
◎ 年会費 2,000円

バイオロボティクス専攻発足

平成十五年四月一日、本学大学院工学研究科の独立専攻としてバイオロボティクス専攻が発足しました。生命の世紀の到来と云われるように、今世紀は生命への理解が一層深まると共にそれに伴う様々な技術革新が期待されており、過去、力学を学理の第一原理として発展してきた機械工学は、科学的視点からの学術研究を維持しながらも異分野との融合によって絶えず新しい研究領域を開拓して

参りました。機械工学において培われてきた学理や技術はバイオメカニクスとして生体に展開され、生体そのものや生体機能の工学的解明等において多くの著しい成果を挙げております。また、機械は電子技術や制御技術と融合し高度に知能化情報化したシステムとなり、ロボティクスやメカトロニクスとして発展を続けております。益々本格化しつつある少子高齢化社会において活力

に満ち安心して生活を実現するためには、医療、福祉、生活支援などの分野で革新的機械システムの創製が切望されております。またそのためには生体と機械との更なる融合を目指した学問を展開する必要があります。バイオロボティクス専攻では、人や生体を対象としてこれらの工学的解明を行うバイオメカニクスや、人や生物のように高度に知能化された機械システムを追及するロボティクス、および生体と機械の融合を目指したバイオマイクロナンソロジーやバイオデバイス工学が有機的に展開することを旨としております。現在これらの学術研究は国際競

争に入らんとしており、この分野の発展に対する学術的・社会的要求は極めて大きく、国際的貢献も強く求められております。機械と生体を融合させる次世代機械システムの研究開発を主眼とする本専攻は、日本が学際的先進工業国として世界の科学技術の先導していくという強い社会的要請に添ったものであります。専攻の更なる発展に向けて、同窓会諸兄には種々ご指導ご鞭撻を賜ることとなりますが何分宜しくお願い申し上げます。
長 南 征 二
(バイオロボティクス 専攻主任)

「東北大学機械系フォーラム in TOKYO」開催

in TOKYO



去る平成十五年五月十六日(金)、十七日(土)の二日間にわたり、東京都大田区の大田区産業プラザ(PiO)にて「東北大学機械系フォーラム in TOKYO」(後援・大田区産業振興協会、東北大学機械系同窓会、日刊工業新聞社)が開催されました。工学研究科、情報科学研究所、環境科学研究所に所属する機械系全四十三研究室が参加し東京地区で開く初

の研究発表会であり、大学関係者、OBおよび産業界から約六百人の参加がありました。本学の「研究第一主義」の伝統を受け継ぎ、機械系では積極的に社会の発展に資する開かれた大学を目指して、これまでに主に仙台において研究成果の紹介と研究室見学会などを実施し、情報発信を行ってまいりました。

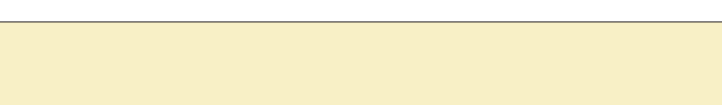
平成十五年度には、工学研究科の二番目の独立専攻としてバイオロボティクス専攻が新設され、機械工学に限らず広く異分野の学生を受け入れ、バイオテクノロジーとロボティクスを融合させる独自の専攻として新しい機械工学を創造することが期待されています。また新設の環

境科学研究科には一研究室が移籍しました。さらに平成十六年度には、機械知能工学専攻、機械電子工学専攻、機械システムデザイン工学専攻、ナノメカニクス専攻に改組する予定です。新体制に向かう機械系のビジョンを示すとともに、最新の研究成果を広く一般に紹介するため、本フォーラムを企画いたしました。広く産業界の方々に、東北大学機械系の活動を知っていただくため、初めての試みとして東京地区にて開催しました。

会場には各研究室のブースを設置し、仙台から4トトラックで運んだパネル・機器を展示して、教官や大学院生が説明員となって来場者に対し、研究成果を説明しました。これと併行して講演会を開催し、佐藤正明工学研究科教授の「21世紀COEプログラム『バイオナノテクノロジー』」について、江刺正喜未来科学技術共同研究センター教授の「マイク

ロ・ナノマシニングとMEMS」、猪岡光情報科学研究科教授の「仙台サイバーフォレスト構想」とインテリジェントモニタリングの開発」、中橋和博工学研究科教授の「航空宇宙工学におけるCFD研究の現状と今後の展開」、小菅一弘工学研究科教授の「ロボティクスが拓く未来」、齋藤武雄環境科学研究科教授の「環境時代のエネルギー革命」第3次エネルギー革命をリードするShinra Concept」、堀切川一男工学研究科教授の「産学連携による多孔質炭素材料『RBセラミックス』の開発と応用」の七件の講演を致しました。また、内山勝機械系長より東北大学機械系の概要紹介が行われました。

初日夕方には、講演会に引き続いてワインパーティを開催し、大学関係者と参加者の情報交換を図りました。来賓としてお迎えした文部科学省研究環境・産業連携課の田中敏課長の祝辞、OB代表の村田稔(精46)さんの乾杯のご発声も頂戴したのちに、和やかに懇親を深めました。この後、いくつかの研究室ではミニ同窓会が開かれ旧交を温めたようです。二日目午後には、同会場にて「東北大学機械系同窓会通常総会」が開催されました(詳細は四頁をご参照ください)。本フォーラムと同時に開催することにより、多くのOBの皆様にもフォーラムに参加していただくことができ、機械系の現状を知っていただくことができると実行委員会が検討し、すでに予約されていた新宿区の会場をわ



機械系専攻、研究所が中核となった三件の21世紀COEプログラムが採択されました!

東北大学大学院工学研究科の機械・知能系に所属する専攻、研究所が中心となった21世紀COEプログラムが三件(昨年度一件、本年度二件)採択されました。いわゆる機械系が中心となった21世紀COEプログラムが二つ以上認められた大学は他にありません。この結果は、東北大学の「機械系」の充実ぶりを示したものであるでしょう。

21世紀COEプログラムとは、大学の構造改革の方針に基づいて、平成十四年度から実施されている文部科学省の事業です。我が国の大学が世界のトップレベルの大学と伍して、教育及び研究水準の向上や世界をリードする創造的人材を育成していくために、国際競争力のある世界最高水準の大学づくりを推進することを目的としています。

以下、機械系で採択された三件のCOEについて簡単に概要を紹介いたします。それぞれの研究拠点では、大学院生(博士後期課程)やポスドククターを中心とした若手研究者の育成のため、特徴的なプログラムが考えられています。

学生を教育する。ベルで機械工学分野を捉えることができ、さらに国際舞台で活躍できる人材を育成する。

- (1) バイオナノテクノロジー 基盤未来医学工学 (平成十四年度採択)
- (2) ナノテクノロジー 基盤機械科学 フロンティア (平成十五年度採択)
- (3) 流動ダイナミクス 国際研究教育拠点 (平成十五年度採択)

拠点リーダー・機械電子工学専攻(現・バイオロボティクス専攻) 佐藤 正明 教授
広範な領域を包含する医と工の融合分野である医学工学をバイオナノテクノロジーという軸でとらえ、細胞機能と生体分子操作、ナノメディスン、分子・構造イメージング、メデイカルインフォマティクスの四つの研究グループを組織し、未来医学工学に関する国際的な研究教育拠点の形成を目指す。将来の先端医学・医療・工学へ貢献する世界的な人材を輩出するため、海外の優れた研究者を招聘するとともに、学生に対しては研究室の行き来を可能にする履歴学生制度のもと、アプレンティスシップ(弟子入り)により徹底的な専門教育を行う。また、海外拠点研究施設への学生の派遣(ノマディック遊牧民的教育)を通じて、真に国際的で先進的な

ざわが本会場に変更していただきました。また機械系同窓会には本フォーラムに後援頂き、同窓会誌発送の際にフォーラムのパンフレットを同封させていただきました。これらのご高配にお礼を申し上げます。今回はお忙しい中、約二百名のOBの皆様に参加いただきました。重ねてお礼を申し上げます。

国際相互リエゾンオフィス等の国際拠点を活用した「国際相互インテリジェントシップ」、「相互ダブルディグリー制度」、「出る杭伸ばす教育」などの教育プログラム、複数の著名研究者を招聘し研究教育の場を提供する「国際サマースクール」の開設などにより、将来、国際的先端プロジェクト研究のリーダーとなる人材育成を行う。

拠点リーダー・機械知能工学専攻 庄子 哲雄 教授
機械工学の未来発展型として、巨視的あるいは連続体としての取り扱いにナノスケールでの科学的合理性を賦与した「ナノテクノロジー 基盤機械科学」を創出し、新しい機械科学の学理と要素・システムの信頼性・安全性評価へ寄与することを旨とする。国際研究教育サテライト拠点の設置、研究教育コーディネーター制、ポスドククター制度、プロジェクト参加型教育システム、研究インテリジェントシップ制度を導入し、若手研究者および博士課程学生のための創造的環境の充実を図る。複数の学際的

研究分野並びにそれぞれの特徴を有する海外拠点を巡回し、スパイラル的に能力を高める研究教育プログラム(ダブルスパイラル研究教育プログラム)を実施し、原子やナノスケールのレ

拠点リーダー・流動科学研究所 圓山 重直 教授
ナノスケールからメガスケールの時空間にわたる流動現象の基礎学理を捉え、独自の流動機能を創成したうえで、応用展開することを旨とする。その過程で、国際的な研究ネットワークを活用することによって、流動ダイナミクス研究の世界的拠点を構築する。

機械三十一年卒同期会

平成十四年十月二十二日、学生會館において、平成八年以来恒例となった同期会が開催されました。



今回の出席者は(五十音順)石川、太田、大野、岡部、小野寺(幹事)、景山、金澤、斎藤、榎原、宍戸、渋谷、中島(浩)、中島(力)、西尾、三浦、八城の十六名で、例年に比べてやや少なくなりました。出席を予定していた塩沢さんは奥様と御一緒の海外旅行から帰ったばかりでしたが、風邪に倒れ、出席できなかりました。

嬉しいことに、今も現役で働いている渋谷さんが初めて出席してくれました。

同期会は仙台で

写真の通り、平成十四年十月二十六日作並温泉で機械工学科昭和三十一年卒の同期会を行いました。出席者は二十五名(卒業時は在籍数五十五名、物故者三名)です。約半数が出席しました。昭和三十一年は高度成長期の後半に相当する頃で、まさに「娘一人に婿八人」と言っても良い程引く手数多でした。「五十五名全員我が社にお越し下さっても結構です」と冗談まじりに豪語する会社もあつたくらいでした。すでに全員が還暦を若干過ぎてますので卒業

機械四十一年卒同期会

昭和四十一年 機械工学科卒クラス会 「耳順を悟ろう会！」

卒業後三十六年目の平成十四年九月七日(日)岐阜の長良川河畔でクラス会を開催しました。仙台から長南君が、そして九州地域から小池・吉田君たちと参集メンバー三十人、半数以上が昨年還暦を迎えました。メンバーの内十二人が夫人同伴、合計四十二人の大クラス会。夫人同伴は先回の箱根・先々会の清水市日本平につぎ三回目であり、過去最高の参加人数です。

一次会は鶴飼見物という趣向で、浴衣に着替えた後に記念写真を撮り、その後五十人乗りの貸切屋形舟に乗船。離岸前に鶴飼によるデモンストレーション。鶴飼の歴史は千三百年、長良川の鶴飼は世襲制の六人、全員宮内庁式部職の国家公務員等々という説明を風折烏帽子・腰蓑・足半(あしなか)姿の鶴飼匠

二次会はホテル地下のメンバーズルームを借り、故人となつた四名(稲吉 勝、白井秀幸、小幡充男、柴田信武の各氏)の友に黙祷を捧げた後に近況報告。皆それぞれに自己PRをし、それぞれの人生を味わい、かつ取り組んでいる様子で、「耳順」にはまだまだ！といった調子。お互い三十数年の歳月をとり越え、いっしょに仙台の時代に行き来。漆黒の山を背景に篝火の下で水面をうごめく鶴の姿は皆元気良く、首振りたてて何度でも潜ってくれた。鶴飼はくもつれないものだ。鶴飼は一通り流してから態勢を整えフィナーレとしての鶴飼舟六艘による総がらみ。日本にはまだまだ良き伝統が残っているものと皆が感動。



長良川河畔にて鶴飼観覧船をバックに42名が全員集合

「おもしろうて、やがて悲しき、鶴舟かな 芭蕉」

夫人方も当クラス会に初めて出席する前は、皆さん躊躇され、

ご亭主になだめすかされての参加であったようですが、二回目以降は積極参加派に大変身。これも各亭主達の徳か、クラス会雰囲気もたらす賜物か？夫

今泉君の急逝を悼んで

「今回のクラス会の七ヶ月後の平成十五年四月四日に今泉文彦君が急逝され、四月二十日に同級生二十一名で大磯の今泉邸を弔問した。ここに今泉君も出席した昨年のクラス会報告の一文を謹んで彼の霊前にささげる。今泉君は過去の二回は夫婦同伴であったが、今回は奥さんのご都合で一緒ではなかった。「次回は夫婦そろって長野には行くから！」と言って、岐阜城公園にて別れた。それが同級生との永の別れとなってしまった。四月二十日には皆が心から彼のご冥福を祈った事を記し、クラス会開催の報告とさせていただきます。」

大見 正俊 (機械工学科41年卒)

工カ二十五年卒同期会

クラス会に代えて

会誌編集幹事さんからクラス会の記事の依頼があり赤澤君に電話したところ「クラス会など何もしないのが二十五年卒の特微では。適当に書いておいてよ」大槻君も「適当にお願いします」とあって連絡のつく範囲で電話近況一言コメントを集め記事に

いたものですから、筆者が皆さんの都合の良い東京で一度開催してはと提案しました。しかし、皆さんにとっては仙台です。この場所のよう、皆さんにそれぞれの想いがあるようでした。大部分の連絡をメールで進め、また、皆さんの中で髪の毛が乏しい方、真っ白の方、なぜかまだに黒々とした方を分けて写真撮影したのが痛快でしたし、五十嵐三武郎氏(東北大、いわき明見大)が、大漁唄込みなど仙台に関連した歌、青葉もゆるなど東北大の歌を記念写真と共にCDで配布してくれたのも、卒業時に比べれば隔世の感がある



昭和25年2月 於 教室(風洞跡)前

- | | | | | | | | |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 後列左から | 赤 沢 | 櫻 村 | 杉 浦 | 柴 崎 | 小野内 | 松 田 | 小 島 |
| 前列左から | 三 井 | 横 田 | 千 葉 | 笠 原 | 酒 巻 | 檀 原 | 大 槻 |

笠原俊郎 (東京都千代田区)「霞ヶ浦の別宅で畑や椿の育成、ゴルフは

やめて海釣りなどもやって元気です。」

松田貞博(市川市)電話に奥様が出られて「年前脳梗塞で入れ入院、自宅で療養中です。口は不自由ですがすっかり暮らしてきます。」毎年のは祝状は奥様と息子さんが代筆の由。

三井慎一郎「いわき市」「水墨画はいくつか入選しました。最近短歌をはじめたり三井家自分小史などもまとめました。今



赤沢 小島 大槻
昭和63年7月 於 Tokyo Jaws

工力二十七年卒同期会

昭和二十六年七月に朝鮮戦争の休戦会議が始まり、九月にはサンフランシスコ講和条約が調印された。特需景気が後退しはじめた混沌とした世相の中、あくる年十七名の級友は巣立っていった。

東京周辺に就職した十名が、その年塩原君の寄宿先で第一回の会合をもった。集まった全員が仙台では宏富寮で生活した連中。酒のツマミは、寮で腹の足しによく口にしたキャベツ(仙台)

その後、地方の在住者から「次は俺のところで」との申し出があり、プランほか一切を引き受けてくれる。宿泊を伴った会合を列記すると(カッコ内は申し出で者、敬称略)、箱根仙石原(大池)、熱海(熊谷、鳴子温泉(相沢)、大洗海岸(平戸、根本、金子)、松島(相沢)、伊良湖(斎藤)、諏訪(鈴木)、十和田(平戸)、遠野(斎藤)であるが、何れも同伴の奥方様に好評であった。

今回、同窓会事務局からクラス会の記事をとの依頼を頂いた。昨年が卒業後五十年で学士会館で会合したが、改めて手許の記録を調べてみるかと丁度二十五回目であった。従って、平均すると隔年開催となる。この間、戦後の高度成長期を支える原動力となつて活躍してきたが、残念ながら三名(花崎、根本、菅野弘の三



1999年6月22日 平泉、毛越寺にて

の依頼を頂いた。昨年が卒業後五十年で学士会館で会合したが、改めて手許の記録を調べてみるかと丁度二十五回目であった。従って、平均すると隔年開催となる。この間、戦後の高度成長期を支える原動力となつて活躍してきたが、残念ながら三名(花崎、根本、菅野弘の三

精密四十二年卒同期会

今年(平成十四年)は横山君のお世話で、九月七日(土)、八日(日)の両日、熱海で同期会が開催されました。参加者は写真に写っている二十三名でした。仲間は七日の午後二時頃から三々五々君)が鬼籍に入ってしまった。現在一名入院療養中であるが、残り殆どが第一線を退き、一病息災、悠々自適の日々を送っている。

学生時代から今日まで一貫してクラスの世話を仰せ付けているが、これは前述のようにクラスの諸兄が応援してくれるから出来ることである。先日の機械系同窓会も、級友の鈴木君が会長職に就いたので、一声掛けると過半数の仲間が応援に駆けつける。昨年の会合で、集まりの頻度を少し増したらという声があった。諸兄の助けを借り、要望に応えたいと考えている。

高松英次
(工業力学科27年卒)



集まりはじめ、早くもホテルのロビーで缶ビールを飲みながらのつもる話が始まりました。大方の参加者が集まった所で、会議室に移り、佐藤(一旭)、西野、鈴木(和彦)君、三名による「私と写真」という話を聞きました。一旭君からは材料や機材も大事では有るが、写真は基

本的に思いであるということが多くなる。写真は、永井君の努力により使うことができた最新のプロジェクトにより、スクリーンに大きく映されました。西野君からは大学生のときから撮っていた蒸気機関車の写真と苦労話がありました。懐かしい蒸気機関車の素晴らしい写真で、また一段大学生の頃の記憶が呼び戻され、懐かしい一時でした。和彦君からも、学生時代から「ごく普通のカメラ」で撮りためた、多くの電車、電気機関車の写真の紹介が有りました。和彦君からはこれとは別に、老後の上手な過ごし方の紹介も有り、これまた活発な質疑応答が交わされました。さすがに御三人の写真は素晴らしいものが多く、話とともに楽しむことができました。

この後一時間程温泉につかったり、部屋で話をしたりして過ぎた後、大広間で宴会が始まりました。阿久津君の司会で、各自の近況最近思っていることなどが紹介されました。我々も、一浪の人は今年が還暦となるため、還暦同期会と名前が付けられました。清 水 慶 史 (精密工学科41年卒)

精密四十八年卒同期会

精密工学科昭和四十八年卒業生のクラス会が五月十七日(土)十八日(日)にかけて熱海のKRホテル熱海で開かれました。



今年三十周年記念なので、仙台で開きたいね、と話していたのですが、幹事も忙しく熱海となりました。十七日が宴会、翌十八日が函南ゴルフ倶楽部でゴルフという日程でした。

参加者は八名、毎回の常連や、三十年振りの初参加もいました。まずは浴衣に着替え、温泉につかった後、夕方六時宴会がスタートしました。ホテルの総支配人の飛嶋さんも東北大学の卒業生とのことでお酒を差し入れて下さり、一気に盛り上がりました。各自の近況報告から、三十年前の暴露話まで飛び出し、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。皆それなりに年をとって

るのに、三十年前の姿とすんわりと繋がるのが不思議でした。十八日のゴルフは四名の参加者を得ました。

朝食後小川さんの車で函南ゴルフ倶楽部へ向かい、ロビーで町田夫妻と合流しました。ゴルフ不参加の小川さん、小倉さんは暫しの歓談後帰宅しました。ゴルフは年に五十、六十ラウンドをこなす町田夫妻、札幌で腕を磨いた村上さん、幹事の戸井田のパーティでまわりました。天気予報が嬉しくも外れた晴天の下、自称晴れ男、晴れ女で、適宜ボールを捜しながらのプレイを楽しみました。

帰りの車中でも酒が入り、学生頃からの近況、家族のことまで、話題は自由に時代を飛び回り大いに盛り上がりました。別れの時間が近づくと残念なほど懇親を深め、再会を約束して



懇親会を終えました。

参加者 三浦、小川、小倉、鍋倉、村上、町田夫妻(ゴルフのみ) 幹事 渡辺、中島、戸井田、鍋倉 正和 (精密工学科48年卒)

精密四十二年卒同期会

我々昭和四十二年精密工学科卒は総勢五十一名。今年から来年にかけて大半が六十歳の定年を迎えることとなります。

定年後皆が各々別の道を歩き出す前に、一度同期会を持つという事になり、三月に有志の幹事会を持つ。まずは予備調査をして果たして何名ぐらい集まるか予測を立てることにする。

四月に予備調査結果を踏まえ、五月三十一日(土)・六月一日(日)の一泊同期会を全員の中心に近い熱海に決定。

葉書とメールで案内をする。その後大島・片岡・伊藤君が精力的に集客・連絡業務を担当。その間に会場の確保等の準備を

して、夫婦三組を含め二十五名の参加が決定。

いよいよ同期会当日、東北方面からは松井・石川、中国/関西方面からは、服部夫婦・成田・池谷、中部/北陸方面からは、志田夫婦・阿部・富田(萬)、そして関東地域からは、伊藤・井上・森・赤髭・前田・前野・大塚・大島・福田・米田・片岡・鈴木(善)・鈴木(昂)夫婦が続々集合。

宴会前に一風呂浴びて軽く一杯やる人も含め、夕刻六時半宴会場に全員の顔が揃う。

酒・食事もちのちのちで近況を語り合い、あつという間に終了の九時。

皆の近況は、定年後の生活を満喫している人・第二の職場で頑張っている人・まだ現役で一線で活躍している人・会社創業の人等様々ですが、何よりうれしかった事は卒業生全員が一人の欠落者も無く元気で人生をエンジョイしている事でした。

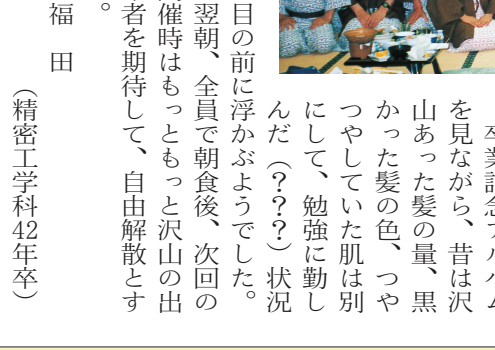
福田 (精密工学科42年卒)

当日六十歳の誕生日を迎えた服部君に、全員でハッピーバースデーの歌を歌いお祝いをした。

酒が進む程に、懐かしい仙台での学生生活時代の話にタイムスリップ。

卒業記念アルバムを見ながら、昔は沢山あった髪の色、黒かった髪の色、つやつやしていた肌は別になんか(???)状況が目の前に浮かぶようでした。

翌朝、全員で朝食後、次回の開催時をもっとと沢山の出席者を期待して、自由解散とする。



当日六十歳の誕生日を迎えた服部君に、全員でハッピーバースデーの歌を歌いお祝いをした。

平成15年度通常総会予告

平成15年度通常総会は平成16年5月15日(土) 青葉記念会館にて開催されます。多数会員のご出席をお願い致します。

記

期 日 平成16年5月15日(土)

14:30-15:00 総会
15:00-16:00 講演会
16:00-18:00 懇親会

講演会

講 師：東北自然エネルギー開発(株) 取締役社長 矢吹 雅男氏
(機械工学科 昭和37年卒)

タイトル：東北の風力発電

総会・懇親会会場

青葉記念会館
〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉05
Tel: 022-217-7993

会 費 8,000円(会費6,000円 年会費2,000円)

連絡先 東北大学機械系同窓会事務局
洞口明子
Tel/Fax 022-217-6926

会員の訃報

(敬称略)

ご逝去を悼み、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。
(平成14年10月同窓会ニュース第8号発送後事務局で入手したものを掲載しました。)

宮沢 基厚 (機S6)	平14・12・16	渡辺 真 (精S23)	平14・12・9
池淵 実 (機S10)	平15・3・24	青山 陸朗 (精S24)	平14・11・25
吉村鉄次郎 (機S10)	平14・11・26	川口 康夫 (機S25)	平15・3・3
小泉 洸 (機S16)	平15・9・28	中村 平 (機S25)	平13・6・6
酒井原 毅 (精S16・12)	平14・7・20	今井 武彦 (機S26)	平15・5・17
泉 亮太郎 (精S19)	平15・8・26	水見 齊 (機S28)	平15・3・21
斎藤 英二 (機S19・9)	平15・1・6	渡辺 博 (精S29)	平14・12・23
渡辺 隆徳 (精S19・9)	平14・11・5	安藤 丈夫 (機S31)	平14・10・3
中河 真一 (機S20・9)	平15・2・28	金子 善一 (旧姓 鈴木)	平14・10・16
若月 直人 (機S20・9)	平15・2・27	高橋 実 (精S32)	平14・9・4
今野 尚 (機S22・9)	平14・8・4	塩原 昌久 (機S38)	平14・9・16
鈴木 重雄 (機S23)	平14・7・3	田口 祐将 (機S39)	平15・7・9
八木 辰夫 (機S23)	平15・4・9	今泉 文彦 (機S41)	平15・4・4
吉田 常吉 (旧名 幸治)	平15・4・19	猪頭 敏彦 (機S43)	平15・3・8
		小松 隆 (機S46)	平15・4・28
		立身 正 (機S46)	平14・4・22
		小松 弘人 (機S58)	平14・4・15
		仁平 裕昭 (機S59)	平13・12・10
		千国 真 (機S62)	平12・11・26
		北條 勝信 (機H7)	平12・11・26

会員死亡の時、氏名・学科名・年次・死亡日・住所をご連絡下さい。会長名の弔電を差し上げます。

(連絡先) 東北大学機械系同窓会事務局 洞口明子
電話・FAX 〇二二一七六九二六

平成十四年度通常総会報告

(敬称略)



東北大学機械系同窓会 平成14年度通常総会

は当たらないが、東京事務所の運営の都合により、新たに堀本良男(精37)を追加選出した。
第四号議案
「平成十五年度事業計画」を江村超(精39)が提示し、さらに「同右収支予算」を渡辺裕(機47)が提示し、それぞれ承認された。
当初予定された議題の他に提案もなく、議事は予定通り終了した。

第二部 特別講演

(十四時十五分)

平成十四年度通常総会は、平成十五年五月十七日(土)、大田区産業プラザP10にて開催された。当初、総会を同窓会ニュースで予告したホテルサンルート東京で開催する予定であったが、機械系フォーラムにリンクして開催することに急遽変更したため、この場所に変更した。そのため、大変盛況となり、出席者は機械四十六名、機械II十六名、精密系五十六名、現任教官五名の総計百二十三名であった。

第一部 総会

(十三時三十分~十四時)

司会の及川忠雄(精密40)が開会を宣言し、鈴木孝(工力27)が会長挨拶を行い、引き続き総会が議長に登壇し、議事の進行をおこなった。

第一号議案

「平成十四年度事業報告」を江村超(精39)が報告し、承認された。

第二号議案

「平成十四年度決算報告」を渡辺裕(機47)が報告、「同右監査結果報告」を佐藤裕久(精40)が報告し、承認された。

第三号議案

本年度は委員の改選年に



して「21世紀に求められる環境親和型の輸送システム「エアロトレイン」と題した講演が開始された。これに先立ち、小林秀昭(機56)が講師を紹介し、引き続き小濱アロトレインについての興味

深い講演が始まった。自然エネルギーを有効に活用した動力で、地面効果による空力反発力で浮上高速走行するエアロトレインについて、そのコンセプトから研究の進捗について詳細な説明があった。わけでも流体力学の宮崎博士による紹介などは会場を沸かせ、実現に向けての期待が膨らむものであった。

その後の質疑応答も活発におこなわれた。引き続き、豊田工業株式会社取締役社長長野川孝夫(機37)が講師となり、佐々木貴(機37)のユーモア溢れる講師紹介のあとに、「私の経営とものづくり」を演題とした特別講演に移った。トヨタ自動車から豊田工業までの永い経営経験に裏打ちされた示唆に富んだ講演であった。工作機械の話は勿論のことであるが、活躍する場が企業や業界に留まらず、地域社会、出身地の街作りや産業活性化にまでも至っているため、大変話題豊富で、具体的なものであった。3C (Cost, Compact, mail Consumption) & ees (Speed, Satisfaction, globalSpecialization) などいろいろな活動のネーミングづくりの巧みさにも唸らされた。多岐にわたる質問にも自在に回答し、方針明確な経営者の面目躍如たるものであった。

第三部 懇親パーティー

(十七時~十八時三十分)

特別会議室でおこなわれたI部、II部から大展示ホールに移動しておこなわれたパーティーまで及川忠雄が引き続

平成13年度収支決算

自 平成13年4月1日
至 平成14年3月31日

収入の部		予算額	支出
会費収入	7,000,000	5,372,000	
雑収入	8,000	22,979	
受取利息	8,000	22,979	
事業収入	1,500,000	1,107,370	
広告料	700,000	299,370	
総会参加費	800,000	808,000	
当期収合計(A)	8,508,000	6,502,349	
前期繰越収支差額	11,149,506	11,149,506	
収入合計(B)	19,657,506	17,651,855	

支出の部		予算額	支出
事業費	2,800,000	2,701,585	
会誌発行費	1,000,000	41,026,820	
ニュース発行費	400,000	431,536	
総会開催経費	800,000	743,229	
講演会開催経費	100,000	0	
東京事務所活動支援費	300,000	300,000	
卒業生祝賀会支援費	200,000	200,000	
事務費	4,050,000	2,882,099	
諸会議費	300,000	197,340	
通信費	1,600,000	748,810	
消耗品費	150,000	132,571	
旅費・交通費	50,000	14,340	
人件費	1,750,000	1,649,553	
諸手数料費	100,000	85,935	
印刷製本費	100,000	53,550	
雑費	50,000	30,881	
予備費	12,757,506	100,000	
当期支出合計(C)	19,657,506	5,714,565	
当期収支差額(A-C)	▲11,149,506	787,784	
次期繰越収支差額(B-C)	0	11,937,290	

事務局より

◎同級会(同期会)ニュース

報告・記事の原稿を投稿して下さい。字数八百字~千字位、記念写真一葉といっしょに。封筒に原稿在中と明記のこと。

(送り先) 〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉01
東北大学工学部機械知能工学科内
事務局 洞口 明子 Tel/Fax 022-217-6926
E-mail : dousou@mech.tohoku.ac.jp
ホームページ : http://www.dousou.mech.tohoku.ac.jp/

◎同窓会誌にご投稿を!

テーマ自由。約2千字。封筒に原稿在中と明記のこと。送り先 上に同じ。
◎住所変更の場合、必ず新住所をお知らせ下さい。同時に旧住所の最寄り郵便局で新住所あて回送手続きをとって下さい。
◎海外に駐在される方は、駐在先の住所を連絡してください。帰国後は直ちに現住所をお知らせ下さい。
◎懐かしいお写真を事務局までお寄せください。会誌、ニュースター、ホームページに掲載させていただきます。

編集後記

同窓会ニュース第九号をお届けします。今回も機械系の現状を紹介する話題、各同期会からの話題など盛りだくさんの内容となりました。原稿の執筆にご協力いただいた皆様に、厚く御礼申し上げます。
(吉田 和哉)